

グリーン・レポート (環境安全報告書)

Environmental Report 2002

KANBO PRAS

ごあいさつ



21世紀は環境の世紀とも云われ、地球温暖化に対する国際的な認識の広がりとともに、産業廃棄物処理問題など、環境への対応の必要性が急速にクローズアップされてきております。これからの企業の役割は、製品安全と環境への負荷を配慮した、より豊かな社会の実現に向けてその責任も重くなってきております。当社といたしましても、環境問題への取り組みなしでは企業の存続として避けて通れない大きな課題、問題となってきております。

当社は、繊維とプラスチックの複合化技術を駆使・活用し、物流、建築、土木など産業資材関連分野の製品を開発し、より豊かな社会を築く為、フレキシブルで機能性を生かしたキャンバス関連製品を幅広く市場に供給してまいりました。また、当社は、PL（製造物責任）法の制定に合わせてPL委員会制度を設置し、福井工場ではISO9001（品質マネジメント）、ISO14001（環境マネジメント）の認証を取得し、これらの問題に対応してまいりました。

今回、「環境のカンボウ」を謳い、使用資源やエネルギーの効率化を始め有害化学物質の削減・代替化などを進め、更には、環境にやさしく使用後も環境負荷の少ない製品（オレフィン系）などの開発と使用後の製品リサイクルの推進などを図り、今後は、廃棄物ゼロ、ゼロエミッションの達成を目指して、皆さんと共に取り組んで行く考えでおります。そして、その情報の公開と開示を行ない、コミュニケーションを高めて行く為、継続して「グリーンレポート」（環境安全報告書）を発行する事と致します。

すなわち、当社が企業活動の中で、どれほど環境に負荷を掛けているのか、どの程度環境面で、社会に迷惑を掛けているかなど、項目毎に出来るだけ情報を数値化し判り易くして社員の皆様や社外の人々にその情報を公表し公開して行く事が必要であると考えます。

当社としては、情報を公開すること自体が企業の説明責任となりますし、より世間の信頼を得ることに繋がり、地球環境改善といった時代の流れの中で避け難い大きな課題として、循環型社会の構築に取り組んで行く考えであります。

その実現に向って、皆様方の忌憚のないご意見、提案を節にお願いし、その参画を期待しております。

2002年10月

カンボウプラス株式会社

取締役社長 前田悦三

会社概要

会社名 カンボウプラス株式会社

設立年月 1939年3月

資本金 10億2030万円

従業員数 180名

事業所

- ・本店 大阪市中央区博労町1-6-9
電話06-6262-1277(代表)
- ・東京支店 東京都中央区
- ・福井工場 福井県鯖江市

主要事業

- ・各種繊維品・フィルムの樹脂加工
- ・土木資材・防災資材各種化成品
- ・サインメディア販売、設計・施工

年間売上高(連結) 130億円

売上構成

- ・産業資材関連 65%
- ・生活資材関連 34%
- ・その他 1%

連結子会社

- ・朝日加工(株)
- ・ニッセンソフテック(株)
- ・大町工業(株)
- ・カンボウ企業(株)

もくじ

- * 表紙
- * 1-ごあいさつ 1頁
- * 2-会社概要 2頁

環境保全に関する方針・目標

- * 3-環境安全基本方針 3頁
- * 4-環境安全目標 4頁
- * 5-環境保全活動の歩み 5頁

環境マネジメント

- * 6-環境安全管理体制 6頁
- * 7-環境保全推進システム 7頁
- ISO14001対応

環境パフォーマンス

- * 8-環境負荷の全体像 8頁
- * 9-公害防止への取り組み 9頁
- * 10-化学物質対策 10頁
- * 11-廃棄物対策 11頁
- * 12-省エネ、CO2対策 12頁
- * 13-環境対応製品・技術 13-15頁
- * 14-環境会計の導入 16頁

その他の取り組み

- * 15-PCB 保管状況 17頁
- * 裏表紙

当レポートの掲載対象範囲

この冊子は、カンボウプラスの2001年度(2001年4月1日から2002年3月31日)の取り組み状況を2002年度にまとめたものです。

環境マネジメント

3. 環境安全基本方針

1) 地球環境行動指針

(1) 基本方針

カンボウプラスは、地球環境と自然保全に努め、より安全な製品を提供し続けるために「環境のカンボウ」を目指します。

地球環境、地域社会と調和した事業活動を通じて社会的責任を果たすために、次の活動を行います。

環境と安全を最優先課題として事業活動を行う。

持続可能な地球環境改善活動を行う。

地球環境と人の健康と安全に貢献する技術・商品の開発を行う

(2) 環境安全宣言

カンボウプラスは、21世紀が循環型社会となり持続可能な発展を続けるため、地球環境と自然保全のために資源保護や環境負荷の低減に努め、環境に優しい製法を確保し、人の健康と物の安全を損なわない製品を提供するとともに、情報開示によりコミュニケーションを高めてグリーンカンパニーとなることを宣言する。

2) 環境保全に関する課題の推進と中期計画化

当面は、緊急の課題について全社的にその実態を把握し、中期(2005年)の環境安全目標に基づき改善計画を立て具体的に推進して行きます。

(1) 環境負荷低減の努力

有害化学物質の環境への排出量削減

省エネルギーの推進によるCO₂排出量の低減

ゼロエミッションの実現

グリーン購入・調達、グリーン物流の拡大

当社製品の環境負荷の定量化

環境に優しい製品の開発と提供

(2) 情報開示の推進・充実

グリーレポートの充実と継続

環境会計の充実

地域社会とのリスクとコミュニケーションの推進

環境保全に関する方針・目標

4. 環境安全目標

「環境安全基本方針」の基づき緊急な重要課題については、環境安全目標を設定し、具体的・計画的(中期)で継続的な取り組みを推進してまいります。

重要課題	環境安全目標(2005年)
1) エコプロダクツの推進	・環境に配慮した技術による製品の開発を進める
2) 省資源・省エネルギーとエネルギー効率の推進	・工場の燃料・電力・用水の原単位を2005年までに、それぞれ10%、10%、10%削減する(2000年度比)
3) 二酸化炭素 CO ₂ の排出量の低減	・CO ₂ 原単位で2005年までに10%削減する(2000年度比)
4) 廃棄物の減量化(3R)とゼロエミッションの推進	・廃棄物を2005年までに10%削減し(2000年度比)ゼロエミッション(埋め立て処分量ゼロ)を目指す
5) 有害化学物質等の削減	・環境負荷の大きい有害化学物質は度合いに応じて使用禁止、削減・代替、使用注意の表示等を行い、削減する
6) グリーン購入の推進	・全ての購入原材料・資材にグリーン購入を推進する。事務用品のグリーン購入を2002年末までに実施する
7) コミュニケーションの充実	・グリーンレポートの定期発行にて情報の共有化を進め、グループ会社、社内外・地域社会との関係を充実する
8) 環境管理システムの充実	・継続して環境活動するために ISO14001 の認証と更新を進め、充実する
9) 環境会計の活用	・環境に係わる費用と効果を明確化し、より効果的に活用する

環境保全活動に関する方針・目標

5. 環境保全活動の歩み

1973年（昭和48年）本社に、環境対策の統括機関として専務の下に環境管理部が設けられ「環境管理規定」が制定され、各工場長（福井、青木、大津川）を委員とした環境対策委員会が定期的開催され、公害発生の防止対策をスタートさせました。

諸処理設備の整備等により公害問題が一段落し、大量生産・大量消費・大量廃棄は新たな環境問題となり、社会の変貌とともに企業の製品安全、製造物責任（PL）が問われることになりました。

1995年製造物責任（PL）法の施行に先立ち常務会の下にPL委員会等を設置しPLマニュアルを定め、PL保険に加入するなどPL防御対策をすすめる一方、製造部門（福井工場）の品質管理対策として、国際標準化機構（ISO）9001（品質マネジメントシステム）の認証取得を目指しました。ISO9001の取得（1996年6月）するとともに、続いてISO14001（環境マネジメントシステム）認証取得（1998年12月）しました。世紀末は、循環型基本法の公布により廃棄物のリサイクル化が義務付けられるなど、生産者の社会的責任が使用後の製品まで及ぶようになり（拡大生産者責任、EPR）2000年「環境のカンボウ」を謳いました。

21世紀の企業活動は、地球環境・地域社会と持続可能な関係づくりが必要となり、福井工場は鯖江市との新たな取り組みとして環境会計の導入、環境報告書公表を行いました。今年（2002年）全社的に地球環境と自然保全を強調しPLと環境対策を統合して、環境コミュニケーションを「グリーンレポート」の発行で高め、今後グループ会社にも拡大し説明責任を果たして行きます。

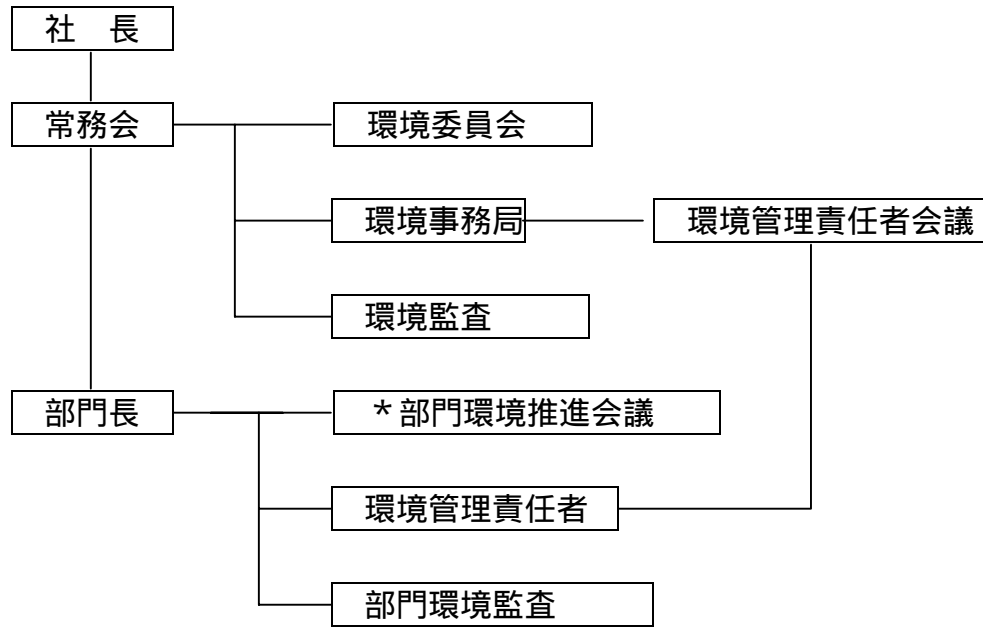
1973	7	本社に環境管理部新設される
1974	7	内規「環境管理規定」制定、施行
	10	「環境管理のしおり」(初版)発行、配布
1995	5	PLマニュアル、PLスローガン制定、施行
1996	6	福井工場ISO9001認証取得
1998	6	福井工場 環境方針 制定
	12	福井工場ISO14001認証取得
1999	6	福井工場、鯖江市MGシステムデザイン会議就任
2000	4	福井工場、鯖江市環境ISOネットワーク会長就任
2001	2	PL方針、PL指針、PL宣言制定、施行
	3	福井工場、環境会計導入
	4	福井工場、環境報告書公表
2002	6	「環境安全基本方針」「環境安全宣言」制定、施行
	7	「環境安全目標」制定、施行
	10	「グリーンレポート」発行、配布

環境マネジメント

6. 環境安全管理体制

カンボウプラスは、環境改善活動に取り組むため、全社組織として常務会の下に環境委員会等を設置し方針の策定や監査等を行い、部門毎に環境推進会議等を開催し環境活動の具体的と適切かつ効果的に管理実施しています。

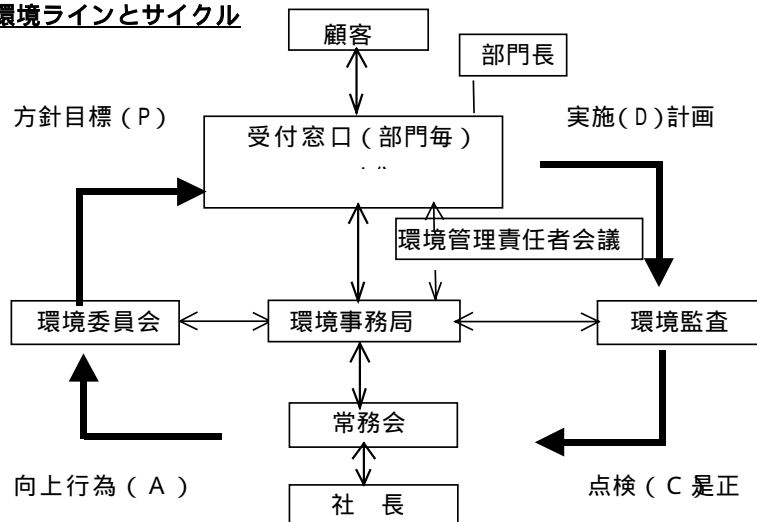
組織図



* 各部門では、環境負荷物質の低減とゼロエミッションを目指すためそれぞれ課題を設定し、取り組んでいます。

継続的に環境改善活動に取り組むため、全社的に自主内部監査（年1回）を行い監査報告書を作成し、環境安全管理システムとして PDCA サイクルを進めています。また、部門毎にも PDCA サイクル（年2回）にて環境改善を推進し、生産事業場では環境マネジメントシステム（ISO14001）と品質マネジメントシステム（ISO9001）を活用しています。

環境ラインとサイクル



環境保全活動に関する方針・目標

7. 環境保全推進システム

ISO14001への対応

当社では、製造物責任（PL）法の施行に先立ち社内にPL委員会、PL事務局等を設置するとともに製造部門（福井工場）の品質管理対策として、国際標準化機構（ISO）9001（品質マネジメントシステム）の認証取得を目指し、1996年6月取得するとともに、続いてISO14001（環境マネジメントシステム）認証取得（1998年12月）して現在、環境目標を設定し環境負荷の軽減に取り組んでいます。

「環境マネジメントシステム」とは、環境負荷の削減を計画的（PLAN）に実行（DO）、見直し（CHECK）、向上行動（ACTION）という、PDCAの仕組みです。21世紀を迎え、地球環境問題が更に深刻化する中、企業として自主的、継続的に環境保全活動を進めることは社会的責務であり、ISO14001は、その為の有効な手段と位置づけ、地域とのコミュニケーションづくりにも役立っています。

福井工場の環境方針は、次の通りです。

環境方針（1998年6月10日制定）

・環境基本理念

当社は、地球環境の保全が人類共通の最終重要課題の一つである事を認識し、企業活動のあらゆる面で、地球環境の保全に配慮して行動します。

・環境基本方針

当社は、テント、ターポリン、帆布及びその他の樹脂加工繊維製品の生産を中心とした企業活動において、環境負荷の低減を目指し、以下の方針に則って行動する。

1. 当社は地域社会と協調し、対話を大切に環境管理活動を通じて社会に貢献する。
2. 当社の事業活動において、省資源、廃棄物の削減、環境負荷物質の管理を行い、汚染の予防を含めた、より良い環境の維持、向上に取り組む。
3. 定期的な内部環境監査の実施により、環境管理活動の実施状況と結果を確認し、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努める。
4. 当社の事業活動に関係する環境関連法規制及びその他の要求事項を遵守する。
5. 当社の事業活動に係わる環境側面について環境目的及び目標を設定する。また、環境目的及び目標は環境方針とともに、年1回見直しを行う。
6. 環境方針は環境方針書として文書化し、環境マネジメントシステムにより実行し維持する。
7. 環境方針は全従業員が周知、認識し方針に則って行動するように、全従業員に対する教育、訓練を質し実施する。

環境パフォーマンス

8. 環境負荷の全体像

当社・福井工場は、防火防水樹脂加工メーカーとして公害、環境、製品安全を最優先課題として取り組んできました。持続可能な循環型社会の構築と地球環境保全していくには事業活動における消費している資源、エネルギーや排出している廃棄物、排ガス等の環境負荷について正しく認識し、その負荷の軽減対策を順次講じていきます。

(単位 t / 年)

資源・エネルギーの使用量 (IN PUT)	製品サイクル (事業活動)	環境への排出物・排出量 (OUT PUT)
<p>・水使用量 369千 /年</p> <p>上水道 12 地下水 47 工業用水 310</p> <p>・エネルギー (CO₂換算)</p> <p>燃料使用量 1,647 電力使用量 2,457</p> <p>・原材料</p> <p>・化学物質取扱量 (PRTR)</p> <p>取扱量 1,746</p>	<p>生産数量 (千m²/年) 24,873</p>	<p>・排水</p> <p>排水量(工水) 310 COD排出量 0.31 BOD排出量 0.31</p> <p>・大気排出 (ボイラー)</p> <p>重油消費量 969 SO_x排出量 38.3 NO_x排出量 15.5 ばいじん排出量 6.6 CO₂排出量 4,104</p> <p>・化学物質排出量 (PRTR)</p> <p>排出量 185.9</p> <p>・産業廃棄物</p> <p>外部委託 1,295 有効利用量 123</p>

環境パフォーマンス

9. 公害防止への取り組み

生産事業場である福井工場では、鯖江市との公害防止協定（*協定に基づく測定、報告（2ヵ月毎）市条例および現在の環境関連法規制基準の遵守はもちろんのこと、継続的な改善と効果的処理に取り組み環境負荷の削減と環境保全に努めています。

1) 大気汚染関係（測定日：2002.3.1）

施設名	項目	規制値	実測値
1 - 水管ボイラー	*SOX	(K=100)	平均 395 ppm
	*NOX	250 ppm	平均 160 ppm
	*ばいじん	0.3g/N	(0.068g/N)

2 - ガス・粉じん（測定日：2001.11.21）

項目	基準値	実測値		
#測定地点(No.)		(1)	(2)	(3)
*キシレン	6.0mg/	<0.01	<0.01	<0.01
*トルエン	5.0mg/	0.08	<0.01	<0.01
*MEK	10.0mg/	0.07	<0.01	<0.01
*ジオチルフタレート	0.2mg/	<0.02	<0.02	<0.02
*ジブチルフタレート	6.0mg/	<0.02	<0.02	<0.02
*塩化水素	0.2mg/	<0.01	<0.01	<0.01
#測定地点(No.)	工場西(道路側)	工場南	工場東(線路側)	

2) 水質汚濁関係（測定日：2002.3.11）

A) 冷却水・雨水、B) 生活関連、C) 工場排水があり、排水の大半が冷却水で河川に、生活排水はそのまま下水道に、工場排水は処理されて下水道に放流されています。

項目	基準値	実測値		
#排水口(No.)		(1)	(2)	(3)
*BOD(mg/L)	B-20	2.1	1.1	1.0
*COD(mg/L)	B-20	2.1	0.6	1.2
*SS浮遊物質(mg/L)	B-70	2.0	1.0	1.0
*N-ヘキサ(n)	B-不検出	<0.5	<0.5	<0.5
#排水口(No.)	西北(道路側)	西南(道路側)	東(線路側)	

3) 騒音その他

騒音・振動・悪臭に対する取り組みについては、工場境界線の定められた地点時間帯で定期的に測定、報告を行い、管轄行政、地域住民の皆様にはご理解いただけるように対策を講じています。2001年度は隣接地域からの環境苦情等ありませんでした。

環境パフォーマンス

10. 化学物質対策

1) PRTR

当社・福井工場では、2000年度実績から PRTR 法（化学物質管理促進法）に基づく対象物質（第1種指定化学物質354物質）で該当する10物質の取扱量と排出量・移動量について調査を行い、現状把握と環境汚染の恐れのあるものについては使用制限や削減を実施しました。

2001年度の取扱量と排出量・移動量は次のとおりです。

取扱量：1746 t / 年

化学物質名	取扱量 (t / 年)
・ アジピン酸ビス (2 - エチルヘキシル) (可塑剤)	131.3
・ アンチモン及びその化合物 (難燃剤)	134.5
・ カドミウム及びその化合物 (安定剤)	0.8
・ キシレン (溶剤)	142.7
・ 6 価クロム化合物 (顔料)	1.6
・ N、N ジメチルホルムアミド (溶剤)	17.7
・ トルエン (溶剤)	95.4
・ 鉛及びその化合物 (顔料)	6.8
・ フタル酸ビス (2 - エチルヘキシル) (可塑剤)	1,215.2
* ダイオキシン類	0.96 mg - TEQ

排出量：185.9 t / 年

・ 大気への排出	185.9
・ 公共用水域	0.0
・ 土 壌	0.0
・ 埋め立て	0.0

移動量：197.99 t / 年

・ 下水道	0.0
・ 事業所外	197.99
* ダイオキシン類	0.12 mg - TEQ

・ TEQ (毒性等量の意味で、ダイオキシン類の量を毒性の強いダイオキシンの量に換算して表します)

2) MSDS

環境汚染の恐れのある化学物質や環境ホルモン物質等の製品に含まれる化学物質への関心は、年々高まってきております。こうしたお客様の要望に応えるために、当社加工製品の安全データシート (MSDS) の整備に努め、人と環境にやさしい製品づくりを進めています。

環境パフォーマンス

1.1. 廃棄物対策

1) 工場における取り組み

福井工場では、環境目標および年度削減目標の達成を目指し、廃棄物の発生を減らすとともに、再資源化の向上と適正処理の維持管理に取り組んでいます。(単位：t/年)

目 標	1997	1999	2000	2001
生産量原単位比	100	93	85	80
発生量(有効利用量)	1998	1999	2000	2001
廃プラ	985(0)	1,028(98)	959(95)	1,026(90)
廃溶剤	405(12)	412(8)	337(14)	385(33)
燃えがら	-	-	4	6
汚泥	-	-	3	-

発生量・1418(t/年) = 委託量(1295) 有効利用量(123)

・産業廃棄物の削減と適正処理管理

工場では、98年(平成10年)の廃棄物の最終処分量をベンチマークとし、減量化の目標値10%以上を今年、削減することになっています。また、自社内で処理できない廃棄物については、委託が確実に処理されるように産業廃棄物管理票(マニフェスト)制度に基づき、適正処理管理するとともに毎年、福井県に自主管理状況報告書を提出しています。

2) オフィスにおける取り組み

福井工場では、環境目標および年度削減目標の達成を目指し、レスペーパーの推進でコンピュータ用紙は大きく削減しました。

目 標	1997	1999	2000	2001
生産量原単位比	100	97	94	90
種類と使用量(千枚)				
コピー紙	575	653	605	554
コンピュータ用紙	145	90	54	58

3) ゼロ・エミッションへの推進

福井工場は、98年12月に環境マネジメントシステム規格ISO14001の認証取得を機に、廃棄物の3R(リデュース・発生抑制、リユース・再使用、リサイクル・再資源化)を推進して来ました。今後、工場から発生する廃棄物が社外で資源化され、埋め立て処分量をゼロにする、ゼロ・エミッション活動を進めていきます。

環境パフォーマンス

12. 省エネ・CO₂対策について

地球温暖化防止は21世紀の地球規模の課題です。福井工場では、自主的に環境目標および年度削減目標の達成を目指し、燃料および電力の効率化を行い省エネルギー対策を推進して、使用原単位の低減による温室効果ガスであるCO₂排出量の抑制に取り組んで参りましたが目標達成できていません。また、用水については今回新たに環境目標を設定して、目標達成を目指し原単位の削減に取り組めます。

1) 目標と実績	1997	1999	2000	2001
目 標	100	95	90	85
(実績)		(99)	(89)	(92)

2) CO₂排出量(単位: t/年)

	1997	1998	1999	2000	2001
燃料 LPG(t)	1,062	852	825	828	870
A重油(t)	26	20	20	2	-
C重油(t)	924	842	835	753	777
計	2,012	1,714	1,680	1,583	1,647
(実績)	(100)	(85)	(83)	(79)	(82)
電力(t)	2,575	1,988	2,760	2,395	2,457
(実績)	(100)	(77)	(107)	(93)	(95)
総量(t)	4,487	3,702	4,440	3,978	4,104

参考: 排出内訳

- ・ 電力購入 60 % (動力使用)
- ・ ボイラー 19 % (蒸気使用)
- ・ 工程, 処理施設 21 % (LPG使用)

燃 料

97年に比べると18ポイント減ってるものの、前年度に比べると3ポイント増加している。燃料転換および生産効率のアップによる削減を図る。

電 力

97年に比べると5ポイント減ってるものの、前年度に比べると2ポイント増加している。現加工のメイン動力のため、より生産効率化を高め削減を図る。

CO₂

97年に比べると8ポイント減ってるものの、前年度に比べると3ポイント増加している。電力の消費量が増えたことによるもので、トータルなエネルギー計画に基づく合理的、計画的削減対策を立てて取り組みます。

環境パフォーマンス

1.3. 環境に配慮した技術と製品の開発

1) 加工プロセスと製品、用途

当社では、環境負荷の削減はもとより、永年蓄積してきた加工技術と最新情報を現場技術に活かし、用途に最適な機能性を付与した製品の開発と提供に努めて参りました。

近年、使用後の製品の安全性についても企業の社会的責任は拡大し、環境保全に貢献する製品の提供は、循環型社会を迎えて環境配慮型の製品（エコプロダクト）の開発は重要な課題となり「環境のカンボウ」では、4R（Reject：無くそう Reduce：減らそう Reuse：再使用 Recycle：再生使用）を提案しています。

加工名	加工方法	*適用原料名	製品、用途名
T. トッピング	熱ロールにより樹脂等を所定の厚み、幅（フィルム状）に広げ基布と圧着させる	PVC EVA CPE CSM PE	工事用シート コンテナバック ルーフィング材 オイルフェンス 装飾テント フロアシート
D. デッピング	基布を液状樹脂等の中に含浸させ、マングルで絞り付着させる	PVC PMMA	トラック幌、シート テント倉庫 野積みシート 工事用シート パイプテント
C. コーティング N. ナイフ R. ロール	基布の片面または両面に液状樹脂等をローターで塗布、付着させる	PVC PMMA SI PTFE	工事用メッシュシート スパッタシート 中型テント 不燃シート
L. ラミネーティング W. ウェット D. ドライ H. ヒート	W) 基布の片面に水系接着剤を塗布し、他基材と張り合わせる D) 基布に水系、溶剤型接着剤を塗布し、乾燥させ粘着状態で他基材と張り合わせる H) 基布と他基材とを熱溶解状態で張り合わせる	PVC PVDFフィルム PETフィルム AL箔	仕切り膜 旗 カバン地 遮光ブラインド 耐熱シート 保温シート サーフィン膜 断熱材

* 適用原料名：PVC（塩化ビニル）EVA（エチレン酢ビ）CPE（塩素化ポリエチレン）CSM（クロロスルホン化ポリエチレン）PE（ポリエチレン）PMMA（ポリメチルメタクリレート、アクリル樹脂）SI（シリコン）PTFE（4弗化エチレン）PVDF（ポリ弗化ビニリデン）PET（ポリエステル）

2) 環境対応製品・新製品「アツプルスター®RR シリーズ」

21世紀は、持続可能な循環型社会に相応しい環境対応製品の開発と提供がメーカーの使命でもあり、資源の循環使用と廃棄物のリサイクル（3R）による削減や化学物質等の使用制限など取り組む課題は数多くあります。 当社は、軟質塩化ビニル樹脂加工製品がメインだけにいろんな方面で環境負荷や環境問題の対象とされてきましたが、今回ポリプロピレン繊維を使用したオールオレフィン素材による製品「アツプルスター®RR シリーズ」を加工販売することになりましたのでご紹介します。

KANBO PRAS アツプルスターRRターボリン

リサイクル&リターナブル

オールオレフィンシート

- 1.リサイクルが容易です。
- 2.焼却時に塩化水素ガスを発生しないノンハロゲン処方です。
- 3.軽い(比重0.8水に浮く素材)。塩ビシート対比:約30%軽量。
- 4.厚生省告示第370号適合(無毒性)。
- 5.温度による割合変化の少ない素材です。
- 6.ウェルダール着が可能な素材です。

用途 屋形テント・カバー・通い袋・小型エアーカー

RR500 (ホワイト)

RR505 (スカイブルー/ホワイト)

(オレンジ/ホワイト) (グリーン/ホワイト) (シルバー/ホワイト)

RR800 (ホワイト)

RR1000 (ホワイト) **RR1005** (ダークブルー/ブラック)

※下記の商品は、受注生産品となります。

「環境のまごころ」を企業理念とし、地球環境の保全に向けた、大切なテーマに、カンボプラスは、真摯な姿勢で取り組んでいます。

製品循環管理システム

買入・製造 → 使用 → 回収・解体 → 再生・再製造 → 買入・製造

環境パフォーマンス

「アップルスター®RR シリーズ」の特長

- ① リサイクルが容易です。
オールオレフィン素材の為に分別せずに一括再生が出来ます。
- ② 焼却時に塩化水素ガスを発生しません。
ノンハロゲン処方を使用しています。
- ③ 軽い（塩ビシート対比：約30%軽量）
比重が0.9で水に浮きます。
- ④ 厚生省告示第370号適合します（無毒性）
- ⑤ 温度による風合い変化の少ない素材です。
- ⑥ ウェルダ－溶着が可能な素材です。

<実施例>



環境パフォーマンス

14. 環境会計の導入

1999年度から環境会計を導入し、環境活動に投入される費用の明確化と活動内容の対費用効果を評価・開示しています。2001年度は102.7百万円の費用に対しての経済効果は6.1百万円のマイナスとなりました。

項目	(単位、百万円)	
	投資額	費用額
1) 事業エリア内コスト		
公害防止コスト(法遵守、周辺地域への環境対策)	0.0	45.3
地球環境コスト(CO ₂ 温暖化対策、省エネ活動)	0.0	7.3
資源循環コスト(省資源、廃棄物管理活動)	0.0	44.5
2) 上・下流コスト(グリーン購入)	0.0	0.2
3) 管理活動コスト(EMS関係、審査、教育、測定、人件費)	0.0	3.4
4) 研究開発コスト(環境配慮型製品、負荷低減の研究開発)	0.0	0.0
5) 社会活動コスト(自然保護、緑化、地域活動、広報、寄付)	0.0	0.0
6) 環境損傷コスト(賦課金、回復・修復費用)	0.0	2.0
合計	0.0	102.7

2. 環境保全効果

1) 事業エリア内コスト	
熱エネルギー使用量	6.1%増
電気エネルギー使用量	4.6%増
コピー用紙使用量	1.7%削減
コンピューター用紙使用量	10.7%増
2) 上・下流コスト管理活動コスト	
難燃剤(アンチモン)使用量	14.0%削減
安定剤(カドミウム)使用量	10.0%削減
顔料(鉛)使用量	10.0%削減
有機溶剤 使用量	17.5%削減

3. 経済効果

内容	金額
リサイクルによる収入	1.2
リサイクルによる費用の削減	0.0
リサイクルによる処理費用の削減	1.0
省エネルギーによる費用削減	-8.3
レスペーパーによる費用削減	0.0

その他の取組み

15. PCBの保管状況

当社の永年培かった軟質塩化ビニル樹脂加工製品等は、皆様方のニーズや用途等に応じより安価で高品質（丈夫）で、ご愛用いただいています。今後カンボウグループとしての取組みを展開して参る予定で、今回は、PCBの保管状況や環境ホルモン問題とカンボウグループ4社について紹介します。

1) PCB（ポリ塩化ビフェニル）の保管状況について

2001年7月に「PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」が制定、施行され、その保管と管理が義務付けられ、カンボウグループの全事業場（4社6事業場）を対象に調査を実施し、全事業場とも適切に管理され保管届けされていました。

NO.	会社名、事業場名	種類	数量	保管場所	責任者
1	カンボウプラス/本社	コンデンサ	3	地下倉庫	要
2	カンボウプラス/福井工場	コンデンサ	8	電気室	要
3	朝日加工/阪和工場	コンデンサ	2	変電室	要
4	ニッセンソフテック	コンデンサ	5	電気室	要
5	ニッセンソフテック/東京本店	コンデンサ	5	倉庫	要
6	大町工業	コンデンサ	2	倉庫	要

2) 環境ホルモン問題と対策

当社では、使用する原材料等について仕入れ先よりMSDS（化学物質等安全データシート）入手し、環境ホルモンの対象物については自主的に使用禁止・代替等の対策を講じるとともに加工販売する製品についてはMSDS、取扱説明書等を作成し情報公開しています。

環境ホルモンは別名「外因性内分泌かく乱物質」ともいい、体内に取り込まれた化学物質の中で、本来のホルモンと似た働きを行い、生物の成長や生殖に影響を及ぼすものがあります。環境庁は、環境ホルモンの疑いがある化学物質の中として67物質を上げ調査中であるが、地球環境に放出されている化学物質が10万種類以上あると言われ、その中で現在問題となつているのは下記の次のようなものです。

ダイオキシン類 PCB DDT 有機スズ（TBT、TPT） ビスフェノールA ノニルフェノール フタル酸ジ・2・エチルヘキシル 重金属（カドミウム、鉛、水銀、）等

3) グループ会社の事業内容（主製品）

- ・朝日加工（株） 染色整理業・生活資材関連事業（カバン用基材加工品）
- ・ニッセンソフテック（株） 染色整理業・生活資材関連事業（染色、樹脂加工品）
- ・大町工業（株） 縫製加工業・産業資材関連事業（コンテナバック等）
- ・カンボウ企業（株） 不動産賃貸、管理・その他事業



お問い合わせ

カンボウプラス株式会社

〒541-0059 大阪市中央区博労町一丁目6番9号

tel 06-6262-1277 fax 06-6262-9419

本社 管理部人事課

home page <http://www.fcc.co.jp/kanbopras/>